

リバプール Football Club にとって、 クラウド型のメディアワークフローは 究極の最終戦

リバプール FCは、コンテンツをWasabiクラウドに一元化することで、データサイロを解消し、合理的でコラボレーティブなメディアワークフローを可能にするシンプルでコスト効率の高いソリューションを導入しました。

リバプール Football Club (LFC) は世界最大のスポーツ関連ブランドの1つであり、世界中に11億2000万人のフォロワーを抱えています。この膨大な数の視聴者に最新のコンテンツを提供し続けるために必要な統合デジタル資産の管理は容易ではありません。リバプール FCデジタル担当シニアバイスプレジデントのDrew Crisp氏のチームは、さまざまなデジタルメディア資産の作成、保存、配信、これらの資産に対応するすべてのデジタル製品の構築、クラブとそのパートナーのためのすべてのマーケティング運営を担当しています。モーショングラフィックスや10秒間のソーシャルメディア用ビデオクリップから、1テラバイトに近いデータ量になるサッカーのフルマッチ動画まで、膨大な量のコンテンツが生み出されているということになります。Crisp氏は、「私たちの仕事は、コンテンツクリエイターが、できるだけ合理的かつ円滑に、ファンの皆様の心に響くインパクトあるコンテンツを制作して配信できるようにすることです。デジタルメディア部門をサポートする巨大な技術チームを持っているわけではないので、運用面に費やされる時間と費用を効率化することが不可欠です」と語っています。



Drew Crisp氏
リバプール FCデジタル担当
シニアバイスプレジデント

Crisp氏のデジタルメディアチームの仕事を総括すると、24時間365日放送のTVチャンネルおよびOTTプラットフォームの運営ということになります。試合のライブ中継、クラブのWebサイト、ファン向けアプリケーション、15のソーシャルチャンネルのメディア資産をすべて作成し、さらにそれを実現するための技術スタック

とインフラストラクチャ全体を構築しています。リバプール FCのインフラの大部分がオンプレミスであり、コストと維持管理の両面で大きなオーバーヘッドを伴っていました。データサイロや手作業による処理の重複が効率低下につながっていたことから、2020年初頭のパンデミック発生時、Crisp氏はすでに新しいメディア管理とストレージのソリューションを探していました。

クラウド移行の原動力

新型コロナウイルスのパンデミック発生当初、Crisp氏と彼のチームは、業務をただちにハイブリッドクラウドモデルに移行し、コンテンツクリエイターとエディターが在宅勤務できるようにしました。しかし、リモートワークは、将来のイノベーション、柔軟性、拡張性を確保するために不可欠であるとCrisp氏が考えていた「クラウド型サービスへの完全移行」を加速する要因の1つにすぎませんでした。

リバプール FCのオンプレのインフラは従来型のSAN & NAS構成でした。Crisp氏は、「24台のディスクラック一杯に並んでおり、エネルギー消費量が多いだけでなく、物理的に大きなスペースを占めています。また、3年から5年ごとに高額な設備投資も必要で、ディスクの障害やRAIDの再構築・交換に関連して多くの技術的なオーバーヘッドが発生しています」と語っています。

Crisp氏にとっては、技術運用チームの時間確保が意思決定の重要ポイントでした。「クラウドに移行することで、このようなアップグレードや管理をほかに任せられるようになりました。マネージドサービス方式では、インフラやそれに付随する技術的な問題を気にすることなく、ワークフローおよび作成中のコンテンツのみに集中することができます。

しかし、時間とコストの削減よりも重要な点は、データサイロの解消により、いつでもどこでもクラウド内のコンテンツにアクセスできるようになったことです。営業やマーケティングからメディアチームまで、リバプールFCには多種多様なデザイン職があり、そのすべてがコンテンツを作成しています。時には、全く同じコンテンツのこともあります」と、Crisp氏は語っています。

現在、リバプール FCはデジタルメディア資産のすべてをクラウドにバックアップしており、クラウドはデータを損失から防ぐだけでなく、中央リポジトリとしても機能しています。そのクラウドに選ばれたのが、現在Wasabiは、リバプール FCの公式クラウドストレージパートナーとなっています。

「データが取り込まれると、ただちにWasabiのアクティブアーカイブにレプリケートされ、オンプレミス/オフプレミスを問わず、チームの誰もが即座にアクセスできるようになっています」とCrisp氏は語っています。次のステップとして、オンプレ環境のアーカイブへの外部アクセスを提供している既存のIconikメディア管理システムの統合が予定されています。「アクセス権が制限されている資産に対して外部からのアクセスを要求されることがしばしばあります。IconikとWasabiを接続することで、そのすべてがエンドツーエンドになります。コンテンツがどこにあり、検索とアクセスが可能になります。チームメンバーは、自分のプロジェクトに必要なクリップをセルフサービスで入手し、承認/拒否のワークフローに自動的に乗せることができますようになります」

しかし、それは始まりにすぎません。Crisp氏は、クラウドストレージは次の世代のイノベティブなプラットフォームになると考えています。「Wasabiと相互運用可能なメディアワークフローベンダーは数多くあります。Lucid Link、Adobe、Telstraなど、さまざまなツールと機能を各社が提供しています。そのさまざまなツールを使いこなすためには、最適なプラットフォームが重要です。そして、その重要なプラットフォームとなるのがクラウドストレージなのです」

Wasabiのクラウドストレージを選んだ理由

「クラウドストレージは大容量のメディアファイルに最適です。Wasabiのようなクラウドストレージはほかにありません。私たちが必要とする容量、拡張性、スピードを、どこよりも低コストで提供してくれます」Crisp氏は語っています。

Crisp氏は、コンテンツにアクセスするためのデータ転送料を支払う必要がないことは、「間違いなく」、Wasabiとの提携による主要なコストメリットの1つと語り、次のように説明しています。

「一日に何時間分ものコンテンツが取り込まれ、それ以上の量のコンテンツがドライブから再生されています。オンプレミス環境では、購入と支払いが済んでいるので、問題にはなりません。しかし、クラウドの場合はデータ転送料の支払いを現実問題として認識する必要があります。従来のクラウドストレージモデルで計算してみたところ、結果は驚くほどの高額でした」



データ転送料を気にしなくていいということは、コスト削減以上の意味を持ちます。正確な予算策定ができるということでもあります。「オンプレからクラウドベースのワークフローに移行するにあたり、Wasabiのおかげで非常にシンプルなコストモデルになりました。確かに、Wasabiは他社のサービスよりもかなり低コストですが、料金の予測が立てやすく、総所有コストも分かりやすいという点が、最大の魅力です」

1 出典 : Nielsen/PL Full Market Study 2020

クラウドイノベーションのためのBYOSアプローチ

Crisp氏は、まずストレージに着目し、ストレージベンダーの決定をリバプール FCが追加を計画しているテクノロジーやサービスから切り離すことで、あえて運用に柔軟性を持たせています。「すべて万能であることを狙っているクラウドベンダーも数多くありますが、専門性の高い分野を扱う場合は特に、総合ベンダーから包括的な製品を購入するのではなく、その分野に精通している企業に相談するのがベストです。私の見解では、Wasabiがまさにそれです」

Crisp氏は、この「別々のベンダーのシステムを組み合わせるベストオブブリード vs. 関連するあらゆる商品を取り揃えるワンストップショップ」アプローチにより、将来のイノベーションを妨げる可能性のあるアーキテクチャやベンダーロックインされることなく、今できる最高のソリューションを構築することができます。Crisp氏は、「新機能やクラウドベースの新しいテクノロジーについて話を伺っているベンダーの多くはまさにこのBYOS (Bring Your Own Storage) モデルであり、ストレージやサプライヤーのベンダーロックインを引き起こさないで、私たちに最適なモデルです。Wasabiはクラウドストレージに特化しており、当FCの他のクラウドソリューションやオンプレミスのハードウェアと簡単に統合できるため、バックグラウンドでテクノロジーが何をしているかを理解しなくても、スマートに仕事を進めることができます。そのため、会話に集中し、適切なタイミングと場所ですべてベストオブブリードのパートナーを選定することができます」と語っています。

リバプール FCの次なる展開

リバプール FCは、強固なクラウドストレージ戦略を実現したことで、ポストプロダクション、編集、TVプラットフォームでのリアルタイムストリーミングなど、ビジネスプロセスに制約や困難がある他のあらゆる分野で、このプラットフォームを利用できるようになりました。「今後は他の重要なビジネスシステムの広範な資産のバックアップをWasabiに一元化することも検討しています。しかし、当面の課題は資産管理の最適化です。ポストプロダクション全体の見直しに着手する予定です。その後には、ポストプロダクションシステムの更新を控えています。オンプレ環境からクラウドへ移行し、Wasabiクラウドストレージの活用を幅を広げられれば理想的です」と語っています。



Wasabiはリバプール FCの
公式クラウドストレージパートナーです。

Crisp氏は、最終的にオンデマンドコンテンツの再生にWasabiを活用することも視野に入れていました。「私たちは24時間365日放送のテレビチャンネルを運営しているので、クラウドでの再生は以前から検討していました。Wasabiはこれを突き詰めるための基盤技術であると考えています。いずれは、Wasabiに保存されたコンテンツを使い、世界中のTelstraのネットワークを介してライブを行う方法も検討に挙がるかもしれません。その場合も、引き続きハードウェアと中央の拠点への依存とを切り離し、これらをクラウドに置くことで、コストを大幅に削減しつつ、柔軟性と信頼性の向上を図ることができます」

Wasabiは、シンプルで予測可能、かつ低価格なHot Cloud Storageを世界中の企業に提供します。複雑な階層や予測不可能な下り転送料とAPI リクエストが無償で、競合他社の5分の1の価格で無制限のデータを保存し、即座にアクセスすることを可能にします。世界中の何万もの顧客に信頼されているWasabiは、テクノロジー業界で最も急成長している、最も先見性のある企業の1つであると評価されています。Carboniteの共同設立者であり、クラウドストレージのパイオニアであるDavid FriendとJeff Flowersによって設立されたWasabiは、ボストンに拠点を置く非上場企業です。WasabiはBoston Red SoxのProud Partnerであり、Liverpool Football ClubとBoston Bruinsの「オフィシャル クラウド ストレージ パートナー」でもあります。Wasabiに関する日本語サイトは、[こちら](#)。

Wasabiの最新情報は、SNS ([LinkedIn](#)、[X](#)、[Facebook](#)、[Instagram](#)) や、ブログ[The Bucket](#) (日本語) でも紹介しています。



 **wasabi**
hot cloud storage

Official Cloud Storage Partner
of Liverpool Football Club

Wasabi Technologies Japan 合同会社

Email : japansales@wasabi.com